

1. 某鉄道会社向け統合仮想基盤構築対応

某鉄道会社向け統合仮想基盤構築

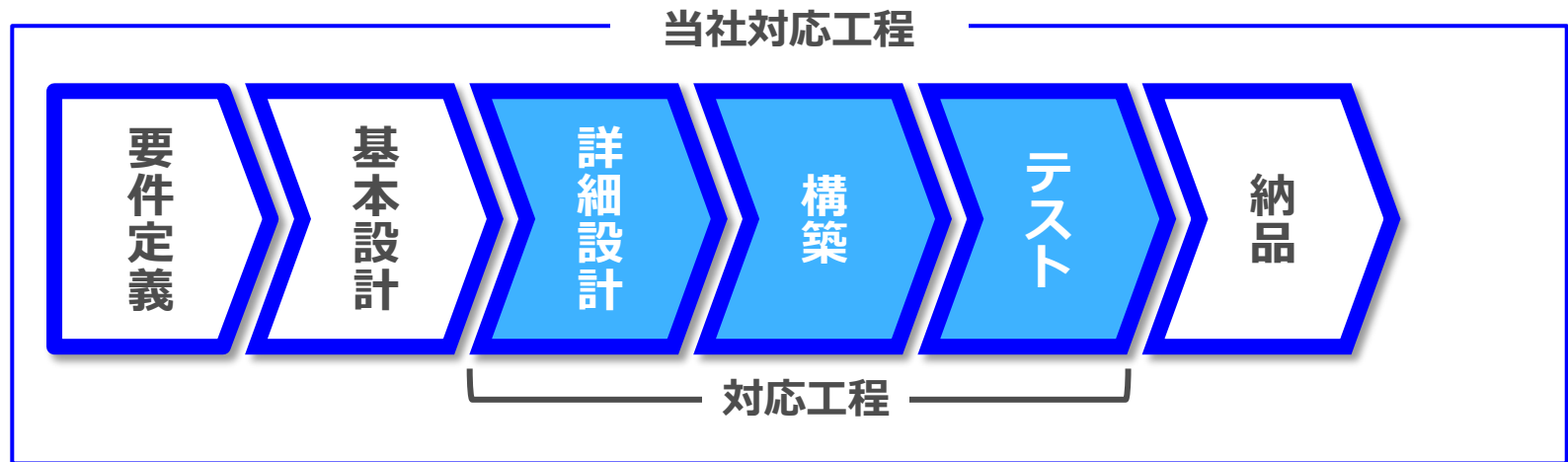
鉄道会社はシステムに「究極の安全」と「豊かさ」を追及されており情報システムの進化のスピードは非常に早く、クラウドと連携ができるシームレスなインフラ基盤が求められます。

■システムの課題と改善

従来システム基盤毎に、SLAに基づく機器構成の標準化を行い最適化していますが、システム毎にサイジングやバックアップを行うため設計構築、調達等に時間がかかるためユーザが求める提供スピードが遅くなる課題がありました。

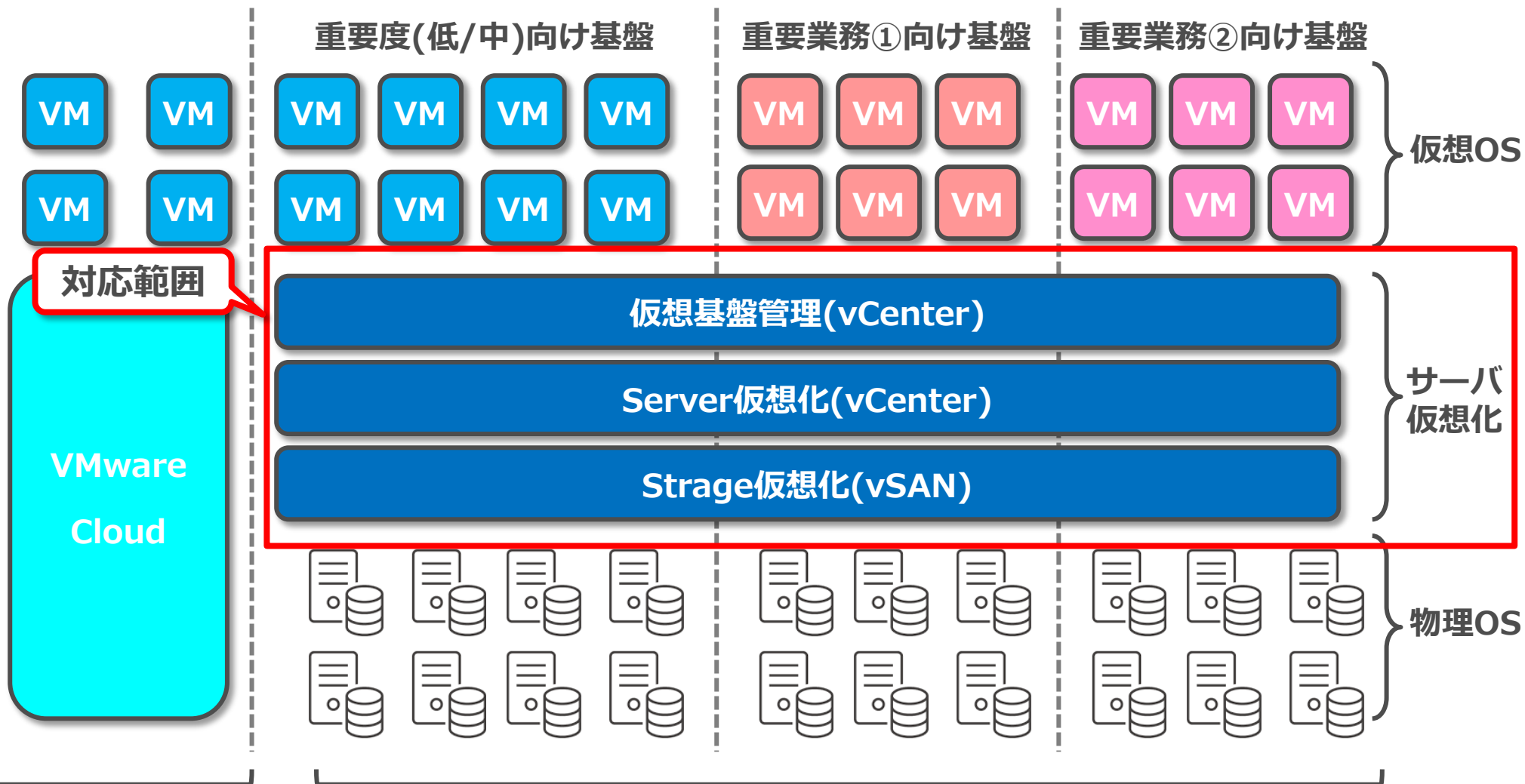
「VMware vSAN」 Strage仮想基盤を用いることによりコストを抑えつつ、迅速でかつ運用負荷を抑えるシステムを実現できます。

当社はクラウドと連携するためのオンプレミス基盤においてVMware社の仮想基盤管理「vCenter」、Server仮想化「vSphere」およびStrage仮想化「VMware vSAN」技術を用いて詳細設計、構築およびテスト工程を請負対応しました。



1. 某鉄道会社向け統合仮想基盤構築対応

某鉄道会社向け統合仮想基盤構築イメージ

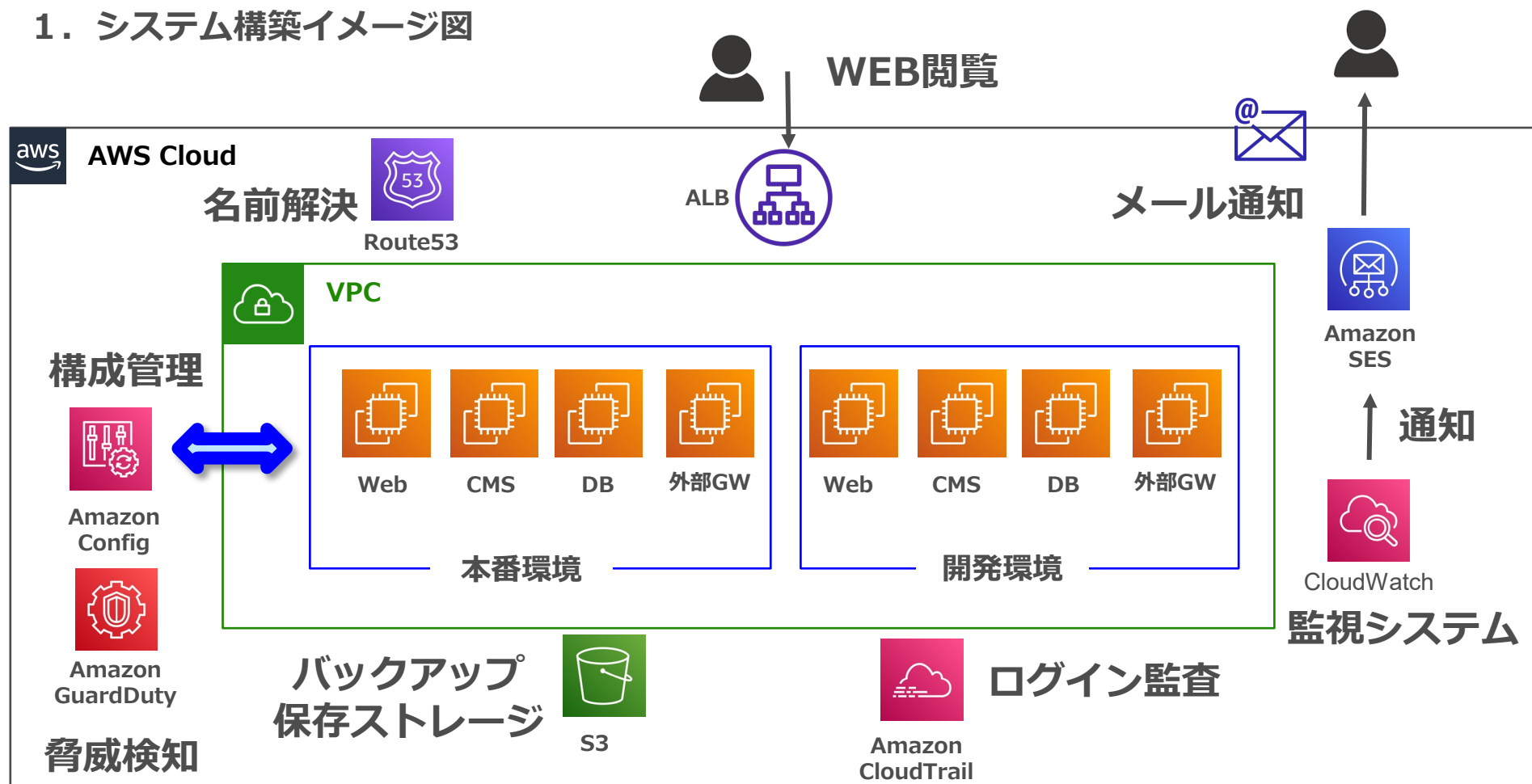


2. 某金融機関向けAWS基盤におけるCMS構築対応

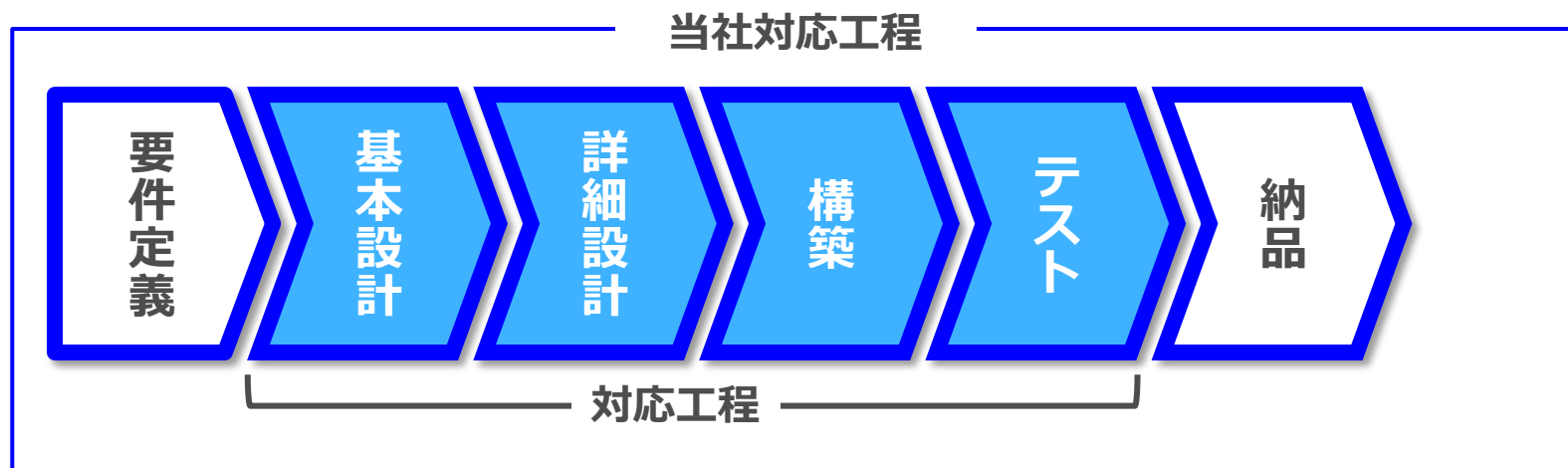
某銀行における社内向けWEBシステムをAWSにて刷新

WEBシステムにおけるコンテンツ更新運用効率の向上、コンテンツ更新ワークフローを実現するシステムが求められていた。導入・開発コスト低減、調達スピードの短縮を実現するためAmazonのクラウド基盤を利用しシステム構築プロジェクトが開始された。

1. システム構築イメージ図



2. 某金融機関向けAWS基盤におけるCMS構築対応



当社は開発プロジェクト内で運用基盤およびOSミドルまでの基盤構築を担当し、対応工程は基本設計からテスト工程までを対応した。また今回のシステム構築プロジェクトでは開発コストを下げるため下記AWSのサービスを利用しシステム設計および構築を実現しました。

<参考：運用基盤要素>

- ①監視システムには「Amazon CloudWatch」を利用
- ②脅威検出には「Amazon Guard Duty」を利用
- ③ログイン監査には「Amazon CloudTrail」を利用
- ④ユーザへのメール通知には「Amazon SES」を利用
- ⑤構成管理機能実現には「AWS Config」を利用
- ⑥バックアップストレージには「Amazon S3」を利用

<参考：OSミドル要素>

- ①サーバ用インスタンスには「EC2」を利用
- ②名前解決には「Route53」を利用
- ③負荷分散には「Application Load Balancer」を利用